多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル	：百間川分流部における環境配慮の取り組み		
水 系 / 河 川 名	：旭川水系百間川	河 川 分 類	：大河川
河川の流域面積	：1800km2	整 備 計 画 流 量	：2000m3/s(W=1/150) セ グ メ ン ト ：2-2
事 業	：河川改修	事業開始年度	平成26年度
目 標 設 定	：定性的	段 階	：D(実施・施工時)
課題・目的(主な)	：流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工 法 (主 な)	：築堤、その他		
配慮事項(主な)	：河川景観への配慮、歴史・文化への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

＜背景＞

旭川水系百間川は、江戸時代に考案された放水路を活用し、国により昭和40年代より百間川河川改修を進めている。現在放水路の呑口部である百間川分流部の改築を進めており、平成30年度には分流部を含めた放水路事業が完成予定である。

古来より岡山県では瀬戸内海産の良質な花崗岩が入手しやすく、城壁や利水施設等多くの石積み遺跡が残されている。この百間川分流部でも江戸期に築造された「一の荒手」「二の荒手」の他多くの遺構が今なお多く残っており、これらの治水施設を活用して歴史・景観や環境にも配慮した分流施設である。

また、岡山城下(現岡山市街地)から約2kmと都市部近郊にありながら、広大な河川区域内には貴重で多種・多様な自然が残っていいる。このため、百間川分流部の改築においては本川旭川の上下流環境の連続性や湧水環境の保全、百間川内のワンドの保全等、環境に配慮しながら工事の施工を進めている。

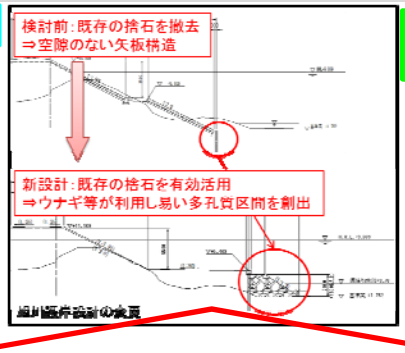
＜目標＞

工事の施工影響の減少(分割施工による影響の回避と回復の促進)

旭川本川の動植物生息環境の保全(特に魚類を指標として上下流の連続性を確保)

取り組み内容・対策例

施工計画において、延長を短く分割施工



魚類の生息環境となる捨て石構造に変更

百間川にはワンドを維持する設計変更と種子の採取によりオニバスの再生を目指す

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

(整備効果)

背割堤(旭川)：

水際を捨石構造に変更　⇒タナゴ類の回復、早期にニホンウナギ等が利用

分割・段階施工を実施　⇒想定以上の短期間に魚類相が回復

(今後の予定)

二の荒手(百間川)・・・オニバス保全の取り組みとして、計画・設計変更

・複数の方法で種子を採集　⇒工事完成後に発芽個体や種子を移植予定

・表土の仮置きと撒きだしを計画　⇒来春以降にモニタリングを予定

ハード対策だけでなく、水辺教室やパンフレット作成等のソフトも併せ、多自然川づくりを継続・維持

備考

問い合わせ先

電話番号